

講 談 へ の 誘 い

【講談とは】

講談を初めて御覧になる方も多いと思います。講談とは、昔の事件や出来事、活躍した人たちの物語をおもしろおかしくおしゃべりする話芸です。

室町時代ぐらいから始まり、テレビや映画のなかった江戸時代から明治時代には大変盛んになりました。舞台に釈台（小さな机）を置き、扇子と 机をたたき張り扇という道具を使います。

この張り扇で台をポンポンとたたきながら調子よく語っていきます。

皆さんがテレビなどでよく知っている「水戸黄門」や「大岡越前守」は、みな元ネタは講談です。

日 時 平成28年9月25日（日）

① 10：00から10：25まで

② 10：40から11：00まで

場 所 本館2階 ミニシアター青柳館

演 目 ① こども講談「ヤマタノオロチ」

② 伊達の堪忍袋

演 者 アマチュア講談師 村 田 陸奥之介

「子ども講談 ヤマタノオロチ」

今から遠い遠い昔、まだたくさん
の神様が人間世界と関わって暮らして
いました。

主人公は神様の世界を追い出されたスサノオノミコト。

追い出されてやってきた人間の国は「ヤマタノオロチ」という悪い神様が支配しておりました。スサノオノミコトは、その悪い神様のいけにえ（神様へのささげ物）になった娘を救うため、ヤマタノオロチに戦いを挑みます。

相手は八つの頭と八本の尻尾を持つ巨大な化け物。

さあその結末は聞いてみてのお楽しみ。

「伊達の堪忍袋」

古典講談の中でもしばしば演じられる作品です。

昨年9月に亡くなった6代目宝井馬琴がもっとも得意としておりました。

現実の伊達政宗公はなかなか芝居っ気のある方だったようで、講談や歌舞伎などでよく取り上げられます。

この演目もその一つ。外様大名ながら將軍の覚えよろしい伊達政宗をおもしろくなく思っていた旗本連中。ある日その中の一人が政宗の頭をボカリとたたきます。

さて、たたかれた政宗。その男をにらみつけ・・・その結末はいかんや。